

---

# 黒い雨

隆

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

黒い雨

### 【Nコード】

N9514Z

### 【作者名】

隆

### 【あらすじ】

個人で冊子に投稿します

## ジャンク。(前書き)

自ら、死を望むお客様へ。

えーっと、殺人鬼と、ネクロフィリアの二人ひと組で活動しております。

お気軽に、御相談下さい。精一杯可愛がりますよ。

ジャンク。

パンツ。

乾いた音がして、瞬間、

眼前が 真紅の霧につつまれる。

俺は、人を殺した。

罪悪感など、微塵もない。

変わり果てた目の前のソレを、軽く蹴ってみる。

小石を蹴るように。

そして、口元が歪む。

異常である。

「ああ、怖いねえ」

なんて、安上がりな言葉を肉塊に投げつけながら。

足早に、その場を立ち去る。

翌日、俺が人を殺めた路地裏が黄色い線で包囲された。

街の大型TVは、けたたましく吼えだてる。

「昨日の事件は・・・」

すげーイラつく。

消えるよ、屑どもが。

お前らの言ってる事なんて、誰も聞いてねえよ。

本当のことなんて隠蔽されてるんだろぅが。

世の中に流れる情報なんてもんは、ほとんどが制限されてるんだよ。それを鵜呑みにする？

テメエらさぁ・・・バカなんじゃないの？笑うわ。

## カニバリズム。

ある廃病院にて。

「陸、おい陸！」

待合のソファに寝っ転がってゲームに打ち込んでる相方に声をかける。

「喘、あんまり怒ると、頭プツツンすよ〜」

コイツの、間延びした声に腹が立つ。俺は、気が短いんだよ。チャッチャと喋れや。

「聞いてんのか、糞餓鬼よオ！」

構わず怒鳴り返すと、かったるそうに首だけこっちに向けて、またも間延びした声で、

「聞いてるって〜怒んなよ〜」ときた。

こいつ氏ね。まじで。

「死ねや」思わず本音が口から飛び出る。ヤッチマッタ。

世界一俺をイラつかせることだけに才能が長けた糞餓鬼は、

「うっわ、ひで〜俺泣いちゃう〜殺して〜、殺してよオ！」と盛大な嘘泣きを始める。

これだよ。手に負えない。つか死ぬほどうざい。

「俺の事、糞餓鬼って言うけど〜、喘だって立派なガキじゃん〜！」

そでしょ〜」

ああああ、うっぜー黙れよおい。撃っちまうぞ！何が、そでしょ〜、だ。

そんなに頭が水風船みたいに、グチャリてーのか。

我慢しきれなくなって、銃を向ける。40口径は・・・人に向けちゃいけないんだよな・・・

ま、そんな事はどうでもいい。殺すためのモンだしな。

と、突然、獲物が跳ね起きた。嬉々とした表情を浮かべながら、

「喘！俺の肉さあ〜、全部、全部残さずに食べてよね〜！俺、死ぬんなら、喘に喰われてさ、糧になりたいの〜！！！」

あー、駄目だ、コイツ・・・ここまで痛いコだったのか？

ネクロフィリアなうえに、俺に、喰われない？馬鹿げてる。

Mなのか？いや、それはない。死体に関してはこいつは、俺がドンびく程、酷い扱いして愉しむやつだからな・・・縛ったり、挟ったり、ヤッテル事は、死者にとっては恥辱の極みだ。ありえね。

「ね〜！喘！食べてよ！ねえ！」

「俺に、そんなキモい趣味はねえーよ！」

「なんで〜!!」

「黙れ、死ね！」

散々だ、マジで疲れる。この餓鬼、扱いが難しい。

オセロ。

白と黒、ソレは大差ない様で、全く違うものだ。

例えば、コイツのように。

陸は、ネクロフィリアだ。要するに、死人に性欲を感じる。

死体に恋をして、屍を愛する。

いつかの、毒林檎の話の王子サマのように。

俺は、自分のために人を狩る。

殺人こそが悦楽。存在価値だからだ。

だが、陸は違う。

殺す術を知らない。

屍を愛して感じるくせに、殺す事を知らない。

そう、まるで白痴。

生まれたばかりの赤ん坊だ。

対して、俺は、

生かしておく術が解らない。理解できない。

成長しすぎて自分をもて余す餓鬼と同じだ。

『知らない』

と

『理解できない』

似て非なる事柄。

陸は、殺す術を知った俺に、生かすことを解らない俺に。

「新しい玩具が欲しい」

と、綺麗な笑みを浮かべて  
ねだるんだ。

こんなに怖くて引き摺り込まれるモノを、

俺は知りたくない。

結局、成す術もなく、  
人を殺す事を止めない。

死人を愛することを止めない。

俺達は、二人でやっとマトモになれた筈なのに！

灰色と 二云う

色を

見いだせずにいる。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9514z/>

---

黒い雨

2011年12月31日03時56分発行